中南米のアボカド生産が増える中、引き続きメキシコが王者

FreshFruitPortal　2024年4月1日

メキシコ農業省によると、同国の2023年のアボカド生産量は190万トンで、中南米及び世界における最大のアボカド生産国となっている。一方、FAOによると、コロンビアは約98万トンで第2位のアボカド生産国であり、ペルーが77万トン以上、チリが15万トンと続いている。

国際的なアボカドコンサルタントであるマウリシオ・オーガー氏が、地域のアボカド生産の状況を分析した。

メキシコ

メキシコについて同氏は、世界の輸出をリードするための適切なツールを構築し、採用してきたと述べ、メキシコには技術的な灌漑システムがあり、在来の花粉媒介昆虫が多いためそれらの昆虫を輸入に頼っていないと説明した。（以下「　」は同氏の発言）

「問題は水へのアクセスであり、井戸の深さは800メートルから1.5キロメートルもある。」

同氏は、メキシコでは農業の実践方法を新しいものに更新する傾向が見られると述べた。その一環として、土壌水分計を次々と設置し、蒸発量よりも土壌水分量の測定に基づいて灌漑を行っている。

コロンビア

コロンビアでは、気候が温暖な低地で栽培される作物は、比較的良い生育条件を享受していると同氏は言う。しかし、それらの作物はペルーと収穫期が重なるという課題に直面している。

「そこでの問題は、コロンビア産アボカドの商業的価値がそれほど高くないことである。海抜2,300～2,400メートル以上の農場では、アボカドの栽培条件はより一層悪くなる。」

同氏によると、それらの生産者は11月に輸出し、生産物は1.30～1.70ドル/kgで販売されている。

同氏はまた、コロンビアにはハス種に関する知識があまりないため、ハスアボカドの国内市場がないと指摘した。果皮が緑色のアボカドはコロンビアでよりよく知られている。

農学的な観点からは、コロンビアでは土壌条件による制約があり、アボカドの栽培に必要な土壌の深さが不足する傾向があると同氏は述べた。

「彼らが抱えている課題は、果樹園の設置である。土壌は粘土の割合が高いため、畝を立てる必要がある。さらに、果樹に施された肥料が失われないように、自動灌漑を使用する必要がある。」

ペルー

ペルーについて同氏は、「土壌の保水力が弱く、有機物がまったく無いにもかかわらず、ペルーではアボカドが大変よく育つ」と述べ、気候が生産に非常に適していると説明した。しかし、開花は過度の着花により大きなストレスを受け、これは全体的な生育を妨げる。同氏は、一般的に、ペルー産のアボカドは樹上での着果が良く、果実の品質も良いと述べた。

チリ

チリの場合、主に寒さと霜などの気象条件のために、アボカドを出荷できる期間が限られていると同氏は指摘した。「チリが抱える課題は水と栄養の管理であるため、生産者はどんどん南下する傾向がある。」

今後の予測

同氏は、エクアドルのアボカド部門でも有望な進展が見られたと述べた。「エクアドルは重要な可能性を秘めていると思う。私が見てきた限りでは、グアテマラにも大きな可能性があると思う。」

主な生産国の中では、コロンビアが大きな成長の可能性を示していると同氏は述べた。「しかし、彼らは果樹園の設置の問題を解決しなければならない。」